技術推進機構

土木学会認定土木技術者資格制度「土木」の明示とキャリアパスを考えた審査方法の導入

―土木技術者としての基本的な資格を目指して―

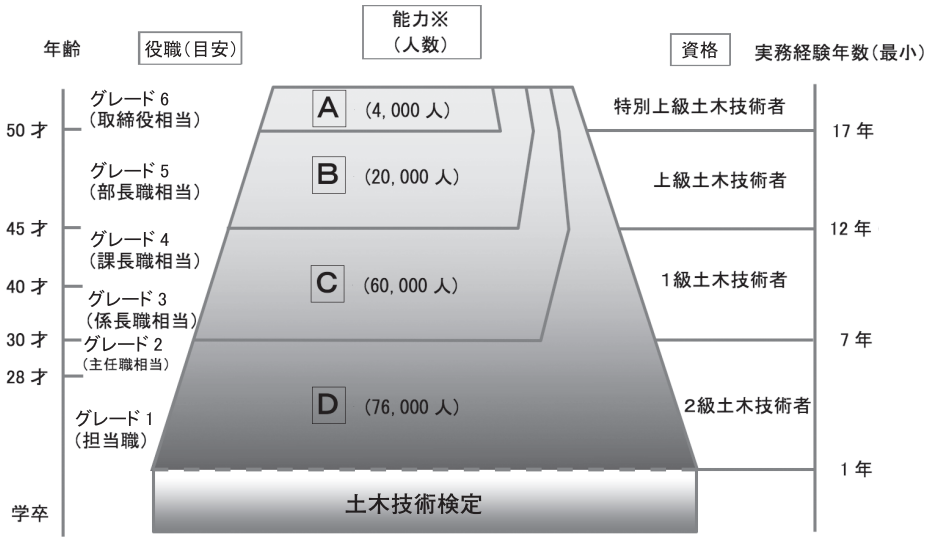
土木技術者資格委員会 委員長
依田 照彦（フェロー会員　特別上級土木技術者　早稲田大学 教授）

グローバル化が急激に進展し、あらゆる面で国際競争力が問われる時代を迎えて、とりわけ日本は世界に先駆けて突入したと言われる人口減少社会の入り口で構造的な改革を迫られている。「美しい国土」、「安全にして安心できる生活」、「豊かな社会」を支える社会基盤整備に深くかかわっている土木界もその渦中にある。事業量が伸びないなかで土木界が持続的に発展していくためには、従前にも増して土木技術の品質確保、土木技術者の技術力の確保やキャリアアップの支援が不可欠である。言い換えれば、土木の信頼性向上に資する「顔の見える土木技術者」の育成が急務である。

土木学会では、2001年度に「土木学会認定技術者資格制度」を創設し、時代の要請に応えてきた。この技術者資格制度は、①資格の階層性（4ランク）、②資格分野の多様性、③資格の更新性といった特徴を持っており、発注機関や企業等における資格の活用も進んでいる。より活用できる資格制度に向けて改革を進めてきたものの、創設後10年を経過した現在でもなお、「土木技術者の一生にわたる技術研鑽と連動した仕組み」としては必ずしも十分には認識されていない。

そこで、この仕組みを「見える化」するため、土木技術者の生涯を通じたキャリアパスの観点から、実社会における土木技術者の責任と権限や活躍の場も考慮し、土木学会認定技術者資格を六つの段階区分（グレード）に区分した「土木技術者グレード ガイドライン」を理事会に提唱した（このガイドラインの詳細については次号にてお知らせする予定である）。このガイドラインでは、年齢を目安とする役職、土木技術者としての能力、学会の技術者資格との関係に基づき、キャリアパスの全体像を示している。**図1**は、ガイドラインに基づくキャリアパスのイメージである。なお、図の役職は、民間企業の一例である。

土木学会の技術者資格は、ライセンス（免許）ではなくクオリフィケーション（適格性の評価）の観点から、技術者の力量（レベル）が区分されており、対象とする技術領域が業務のプロセスや土木技術の主要な分野をできるだけ大くくりに網羅した形で構成されている。このことから、わが国における土木に関するさまざまな資格をその枠組みの中に位置づけることができる（**図2**）。つまり、多種多様な資格に対する資格のプラットフォームとしての役割を持たせることができ、他の資格を持つ方が本会の技術者資格を持てば、その資格も含め、技術者としての力量を社会から見える形で明示することができる。まさに「顔の見える土木技術者」につながる。この特徴を活かして、土木学会の技術者資格を土木技術者の基本的な資格とするため、技術者資格制度および各資格の名



※専門的能力の定義（土木学会認定土木技術者資格制度による）

A 専門分野における高度な知識および豊富な経験に基づく広範な見識により、日本を代表する技術者として土木界さらには社会に対して、多面的に貢献できる能力

B 複数の専門分野における高度な知識、あるいは少なくとも1つの専門分野における豊富な経験に基づく見識を有し、重要な課題解決に対してリーダーとして任務を遂行する能力

C 少なくとも1つの専門分野における高度な知識を有し、自己の判断で任務を遂行する能力

D 土木技術者としての必要な基礎知識を有し、与えられた任務を遂行する能力

図1　土木技術者のキャリアパス

称に「土木」を加えるとともに、資格審査において他の資格の保有を積極的に考慮するなど、制度改革を進めることとした。（平成23年1月21日理事会承認）

すでに、資格制度の改革については、より受験しやすい資格とするため、①会員限定条件の撤廃（一部資格除く）、②2級土木技術者の受験資格の拡大（学部生も受験可能とした）、③実務での経験を重視して審査する実務コース（上級、1級コースB）の設置を図っているが、さらに2011年度からは、④会員限定条件の完全撤廃（特別上級土木技術者もフェロー会員要件を外す）、⑤2級土木技術者資格審査のコンピュータ化と「土木技術検定試験」の導入（どなたでも受験できる、この検定試験での得点が学会の定める点数を超えた方は資格登録要件を満たせば2級土木技術者として認定される）、⑥他の資格保有者に対する試験の軽減（当面、技術士とRCCMを対象とする）、⑦試験時間の短縮（上級、1級コースA）などを実施することにしている。

昨今の土木界および土木技術者を取り巻く厳しい環境の下、「土木技術者が客観的な資格でその技術を評価され、その技術者が継続教育を積み重ねることにより技術の研鑽・向上を図ることの重要性」については土木界では共通の認識である。

土木技術者のキャリアパスの図で示したように、土木学会の技術者資格レベルに基づくキャリアパスは土木技術者としての登竜門である「土木技術検定試験」から始まる。土木技術者を目指す学生、第一線で活躍しておられる多くの土木技術者の方々に、それぞれの立場にふさわしい「土木技術者資格」を保有していただき、自らの能力の証左としていただきたい。そして、キャリアアップを目指していただきたい。土木学会は土木技術者のキャリアアップを見える形で応援いたします。

（詳細については、土木学会のホームページ（土木技術者資格制度 http://www.jsce.or.jp/opcet/shikaku.shtml）を参照いただきたい。）

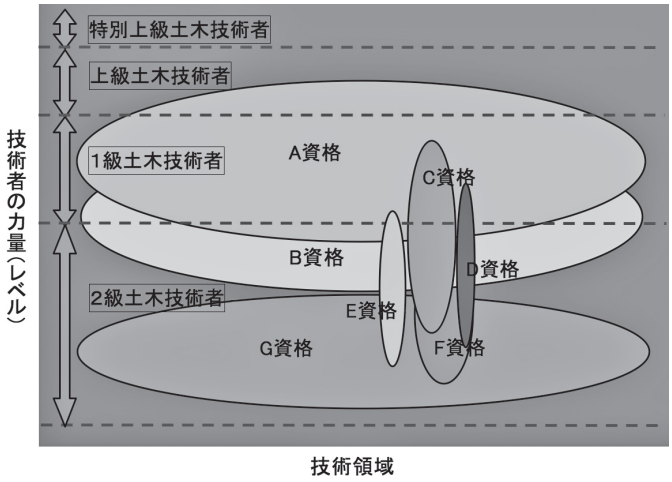


図2　土木学会の土木技術者資格と他の資格との関係（イメージ）

土木学会の本

複合構造シリーズ 04

FRP 歩道橋設計・施工指針（案）

FRPは軽量性や耐久性に優れているため、主部材に用いることで歩道橋全体の建設費用や維持管理費用の縮減が期待できます。また、環境への負荷が比較的小さいとされ、持続可能な社会基盤の構築に有望であると考えられます。

本指針は、「複合構造標準示方書」に規定された複合構造の原理・原則に則り、FRPを複合構造の素材として活用する際の特徴的な事項がとりまとめられたものです。

初めてのFRP構造物の設計・施工指針を活用いただくことで、FRP歩道橋はいうまでもなく、指針で示される設計・施工技術が準用されることにより、多くのFRP複合構造物が誕生することを期待しています。

■編集：複合構造委員会 FRP歩道橋設計ガイドライン小委員会（委員長：東海大学・中村俊一）
■2011年1月発行、A4判、241ページ、並製本
■定価：3,780円（本体3,600円＋税）→ **会員特価：3,410円**※注
■送料：470円
ISBN 978-4-8106-0733-8

注文・問合先

（社）土木学会 出版事業課 書籍販売係
TEL 03-3355-3445 ／ FAX 03-3355-6055
■Web注文　http://www.jsce.or.jp/publication/
■FAX注文　学会誌綴込み「図書注文書」をご使用ください

丸善出版（株）
TEL 03-6367-6038 ／ FAX 03-6367-6158
※注）丸善出版への注文には会員特価は適用されません